

この学校にわたしたち

2023. 6. 12

N013

袖振り合うも…



十数年前、教師になりたての教員と同学年を担当しましたが当時、彼は学級がうまくいかず悩んでいました。私は他の教員と毎日、放課後、話を聞いたり、対応策を考えたりしたことを覚えています。数年前、久しぶりに彼と会った際、彼から「あの時、先生から手紙で励ましてもらったことは忘れません」と言われました。私は夜遅くまでの会議でその教員とその日は顔を合わせる事ができなかったため会議が終わってから手紙を書き、机のマットにそっと挟んでおいた記憶があります。その後も様々な人に自分の撮った写真を絵葉書にしてその裏に一言メッセージを書き、渡し続けています。ハガキを葉書と書くのは平安時代にタラヨウの木の葉の裏にとがったもので傷をつけ、文字を書いたことが始まりだと言われています。タラヨウの葉に書いた文字は葉が枯れた後も残り続けるそうです。

書いた私が忘れていてももらった本人の記憶に残り続けていてくれたことは驚きでもあり、とても嬉しく感じました。先日、6月2日に白山中学校中学2年生の生徒5名が職場体験としてハツ山小学校に来て、5・6年の児童に中学校生活について話してくれたり、交流をしたりしました。「袖振り合うも他生の縁」ということわざがありますが、この5名とはこれでもう会わないかもしれない…これからもこの子たちには良いことだけでなく試練も待ち受けているかもしれないが一人ひとり断じて負けずに乗り越えて立派な大人になってほしいと思い、カバンにいつも入れている絵葉書の裏に一言添え、帰ろうとしている5名に渡すことができました。これからも自分が出会う人々に子どもであれ、大人であれ、自分の周りの人に希望を送り続けていける人間でありたいと思いました。

少人数ならではの…

先日、登校してきた低学年の児童が児童玄関前で立っただままで中に入ろうとせませんでした。しばらくして、高学年の児童が登校してくるとすばやくその子のところに駆け寄って行って嬉しそうにしていました。高学年の児童もやさしい眼差しで低学年の児童に話しかけていました。ハツ山小ではこのような光景は休み時間の運動場や校長室でもよく見かけます。ハツ山小では児童会主催・学校行事とともに縦割りグループを使った活動を日頃から行っています。遠足における遊びの時間、運動会、そして7日はスポーツテストを縦割りで行いました。低学年も高学年も教科書では学べない、人格形成の基盤となる大切なことが自然に育っていることに喜びを感じています。

